

2022年度(令和4年度)事業報告

1. 土壌医の会を巡る状況

(1) 土壌医検定試験の実施結果

2022年度(令和4年度)土壌医検定試験は、令和5年2月12日(日)に全国42会場(正会場8、準会場34)で実施された。2022年度の実施結果は以下の通りである。

① 試験申込者数の推移:(表1参照)

2022年度の試験申込者数は3,136名で、前年度に比べて97名増加した。級別で見ると、2級は71名、3級は45名増加したが、1級は19名減少した。

表1 試験申込者数の推移

(単位:名)

	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	前年 度差
1級		207	152	140	119	133	137	129	88	110	91	▲19
2級	1135	1104	1072	1133	1121	1128	1049	1138	1151	1220	1291	71
3級	822	1390	2353	1744	1612	1750	1619	1498	1618	1709	1754	45
合計	1957	2701	3577	3017	2852	3011	2805	2765	2857	3039	3136	97

② 職業別等試験申込者:(表2参照)

職業別の申込者で最も多いのは、「会社員」で、次いで「農業者、農業法人」、「JAグループ」「農業高校生」、「農業大学生」の順となっている。

前年度と比較して最も増加したのは「農業者、農業法人」(57名)で、次いで「専門学校生」(52名)、「JAグループ」(34名)の順である(その他は除く)。

「農業者、農業法人」、「JAグループ」については最近の動向からみて、増加基調にあるものとみられる。

前年度より減少したのは「農業高校生」(▲84名)で、そのほかはすべて増加する結果となった(その他は除く)。

「農業高校生」の減少は、前年度まで準会場として設置のあった2か所の農業高校が2022年度は不参加だった影響が大きいとみられる。一方で、「専門学校生」の増加は新たに農業系の専修学校が準会場に加わったことによるものとみられる。

表2 職業別試験申込者数の推移

(単位:名)

職業等	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	前年度差
会社員	945	1,992	2,790	2,066	1,713	1,679	1,347	1,226	1,206	1,292	1296	4
JAグループ	150	167	163	209	237	220	308	271	322	334	368	34
農業高校生	77	49	130	263	261	286	282	231	326	342	258	▲84
農業者、農業法人	118	91	142	111	138	221	281	329	288	354	411	57
農業大学生	17	23	27	34	92	108	185	197	221	196	209	13
公務員	151	114	129	133	175	177	165	193	156	171	187	16
公益団体職員	30	20	21	18	19	14	15	21	20	18	20	2
自営業	56	46	-	-	-	24	17	18	35	49	51	2
大学生、大学院生	64	65	80	64	110	131	134	163	149	154	160	6
専門学校生	2	8	-	7	5	8	8	9	34	5	57	52
短期大学生	-	-	-	14	13	14	12	9	-	-	-	-
NPO、パート	46	39	25	17	14	26	1	-	-	-	-	-
その他(記載なし含む)	301	87	70	81	75	103	50	98	100	124	119	▲5
合計	1,957	2,701	3,577	3,017	2,852	3,011	2,805	2,765	2,857	3,039	3136	97

③試験申込者の試験会場別内訳:(表3参照)

試験会場はブロックごとの本会場が8会場のほか、準会場が34会場の計42会場を設置して実施した。会場数は前年度と同じであるが、新規4会場の設置、既存4会場の辞退で4つの準会場が入れ替わるかたちとなった。

準会場で新たに設置した会場は、高崎会場、東金会場、農業大学校1校、専修学校1校の計4会場となっている。高崎会場は首都圏土壤医の会が、東金会場は両総土壤医の会が設置した。

2022年度は、前年度と比較して正会場については申込者が若干減少する結果となったが、受験者が申込時に選択可能な準会場(オープン型準会場)である高崎会場や東金会場が新たに加わり、試験申込者数の増加につながったものと考えられる。

④土壤医検定試験合格者数と合格率:(表4参照)

2022年度の土壤医検定試験の合格者数は1,250名で、前年度に比べて51名増加した。合格率については、1級は21.0%、2級は27.9%、3級は57.5%となっており、前年度と比較して1級は増加したが、2級と3級は低下した。

表4 試験級別の合格者数と合格率

(名)

	2022年度				2021年度			
	申込者	受験者	合格者	合格率	申込者	受験者	合格者	合格率
1級	91	81	17	21.0%	110	95	19	20.0%
2級	1,291	1,147	320	27.9%	1,220	1,000	333	33.3%
3級	1,754	1,588	913	57.5%	1,709	1,438	847	58.9%
計	3,136	2,816	1,250	—	3,039	2,533	1,199	—

表3 試験会場別試験申込者数

(単位:名)

試験会場	2022年度				2021年度			
	1級	2級	3級	計	1級	2級	3級	計
札幌	14	103	99	216	12	105	68	185
仙台	4	73	83	160	5	54	133	192
東京	31	243	191	465	40	272	176	488
福井	2	19	67	88	2	21	62	85
名古屋	7	89	89	185	13	95	91	199
大阪	9	130	156	295	13	121	145	279
岡山	4	42	59	105	4	45	53	102
福岡	17	141	83	241	18	130	88	236
沖縄	3	6	8	17	3	11	9	23
網走		20	10	30		18	6	24
秋田		12	31	43		16	29	45
山形		22	9	31		13	19	32
高崎		16	28	44				
鴻巣		50	66	116		57	53	110
東金		25	27	52				
長野		39	57	96		38	49	87
静岡		48	56	104		47	50	97
新潟		27	15	42		26	49	75
島根		29	16	45		11	14	25
愛媛		19	26	45		9	9	18
高知		18	65	83		17	53	70
大分		35	60	95		35	53	88
実践学園		3	26	29				
福島農短						2	5	7
栃木農高			37	37		1	36	37
小山北桜			12	12			19	19
長野農大		3	48	51		6	53	59
南安曇						1	15	16
静岡農高			13	13			16	16
田方農高		1	11	12			20	20
新潟農大		1	20	21				
藤枝北							31	31
知多農協		4	2	6		7	9	16
岐阜農林			30	30		1	52	53
加茂農林			39	39			40	40
大垣養老			21	21			28	28
郡上高			14	14			20	20
龍谷大		23	44	67		16	39	55
庄原実業			14	14		1	24	25
徳島農大		2	17	19		6	10	16
徳島鳴門		15	15	30		2	19	21
朝倉		11	39	50		15	21	36
JA大分		14	11	25		9	9	18
大分短大		8	9	17		7	9	16
宮崎農大			31	31		1	17	18
鹿児島農大						4	8	12
正会場計	88	840	827	1755	107	843	816	1767
準会場計	3	451	927	1381	3	377	893	1272
総計	91	1291	1754	3136	110	1220	1709	3039

(2) 土壌医等資格登録の状況:(表5参照)

① 土壌医等資格登録者の推移

土壌医等資格登録者数は、2023年3月現在4,030名で、前年度末における3,931名から99名増加した。全体として資格登録者数は増加してきている。

表5 土壌医等資格登録者数の推移 (単位:名)

資格名	2023年 3月現在	2021 年度末	2020 年度末
土壌医	255	236	227
土づくりマスター	1,130	1,043	1,007
土づくりアドバイザー	2,645	2,652	2,528
合計	4,030	3,931	3,762

② 土壌医等資格登録者の研鑽機会(CPD取得機会)の拡大

コロナ禍で研修会等の開催が困難な状況下において、土壌医等資格登録者がCPD単位を取得する機会を広げるために、令和2年8月に「土壌医検定資格登録と継続研鑽に関する要綱」を一部改正し、新たなCPD取得メニューを追加したが、令和4年度においてもこれの活用が多くみられた。

- ・現地圃場の土壌調査・測定を通じた農家等への診断指導(5単位/半日)。「データ駆動型土づくり推進事業」の貫入式土壌硬度計による測定アドバイス
- ・日本土壌協会のウェブサイト(土壌医ネットワーク)で提示される演習問題への回答でCPD単位取得が可能になった。

択一式問題への回答(土づくりアドバイザーと土づくりマスター対象):正解率8割以上の場合4単位。回答者が170人

土壌診断事例問題への回答(全資格登録者対象):事例2課題で8単位。回答者が114人。

また、土づくり推進フォーラムと共催して実施した講演会及びシンポジウムでは、特にWeb参加者の大部分が土壌医等資格登録者であり、会社組織として集団で参加する事例が多くみられた。

(3) 土壌医の会の組織化の状況:(表6参照)

土壌医資格登録制度では、資格登録者に継続研鑽が義務付けられており、その継続研鑽等を行うための重要な組織として土壌医の会が位置づけられている。

全国的活動を推進するための組織である「土壌医の会全国協議会」を除き、これまでに「地域土壌医の会」が22組織、「事業体土壌医の会」が17組織の合計39組織が結成されている。

2022年度は、新たな土壌医の会の設立はなかった。

表6 土壌医の会の組織化状況一覧

(2023年3月末現在)

No.	設立日	名称	会長(代表)	事務局所在地	区分
	2017年3月7日	土壌医の会全国協議会	野口勝憲	東京都	全国
1	2014年11月17日	沖縄土壌医の会	宮丸直子	沖縄県	地域
2	2015年10月1日	ヤンマー土壌医の会	長光良平	大阪府	事業体
3	2015年10月9日	富士見工業土壌医の会	山本正信	静岡県	事業体
4	2015年10月14日	クボタ土壌医の会	井上香奈	大阪府	事業体
5	2016年1月27日	ホーネンアグリ土壌医の会	小林民雄	新潟県	事業体
6	2016年2月23日	日本肥糧土壌医の会	小川孝行	東京都	事業体
7	2016年3月23日	片倉コープアグリ土壌医の会	野口勝憲	東京都	事業体
8	2016年5月26日	朝日肥糧土壌医の会	八重安修	香川県	事業体
9	2016年8月16日	「土の匠」土壌医の会	越坂義明	群馬県	事業体
10	2017年4月1日	首都圏土壌医の会	高山晃	東京都	地域
11	2017年4月25日	サカタ土壌医の会	田村恵理子	高知県	事業体
12	2017年6月1日	朝日アグリア(株)土壌医の会	武田正人	埼玉県	事業体
13	2017年7月3日	新潟県土壌医の会	小柳 涉	新潟県	地域
14	2017年9月7日	柏土壌医の会	高野典子	千葉県	地域
15	2017年9月22日	高知土壌医の会	山崎浩司	高知県	地域
16	2017年9月28日	信州土壌医の会	吉田清志	長野県	地域
17	2017年10月4日	住商アグリビジネス土壌医の会	岡村大輔	東京都	事業体
18	2017年12月12日	北海道オホーツク土壌医の会	佐藤富則	北海道	地域
19	2018年6月20日	大分土壌医の会	小野忠	大分県	地域
20	2018年7月1日	生科研土壌医の会	中嶋浩平	熊本県・埼玉県	事業体
21	2018年7月19日	札幌土壌医の会	根本浩	北海道	地域
22	2018年8月22日	茨城土壌医の会	屋代幹雄	茨城県	地域
23	2018年9月12日	やまか土壌医の会	藤井秀和	東京都	事業体
24	2018年10月15日	三重県土壌医の会	近藤芳弘	三重県	地域
25	2018年11月1日	愛媛土壌医の会	上野秀人	愛媛県	地域
26	2018年11月19日	近畿土壌医の会	間藤 徹	大阪府	地域
27	2019年7月18日	九州土壌医の会	大畑和生	長崎県	地域
28	2019年7月25日	山陰土壌医の会	松本真悟	島根県	地域
29	2019年9月17日	福岡土壌医の会	一百野 昌世	福岡県	地域
30	2019年12月23日	北部九州土壌医の会	染谷孝	福岡県	地域
31	2020年2月3日	宮崎土壌医の会	赤木 康	宮崎県	地域
32	2020年6月15日	イノチオ土壌医の会	石黒康平	愛知県	事業体
33	2020年7月20日	豊田土壌医の会	井口義紀	静岡県	事業体
34	2020年8月5日	秋田土壌医の会	金田吉弘	秋田県	地域
35	2020年8月25日	両総土壌医の会	長谷川智重	千葉県	地域
36	2020年10月1日	日東エフシー土壌医の会	斎藤良隆	愛知県	事業体
37	2021年4月1日	アグロカネショウ土壌医の会	後藤 純	埼玉県	事業体
38	2021年4月1日	青森県南土壌医の会	後澤 寿雄	青森県	地域
39	2022年1月17日	広島土壌医の会	森 昭暢	広島県	地域

(4) 土壌診断の推進

近年、地力低下や肥料価格の高騰等を背景として土づくりの推進が重視されてきている。土壌診断に関しては、農林水産省の補助事業である「データ駆動型土づくり推進事業」が、2020年度から2022年度まで3か年間実施されたが、全国協議会が実施主体の構成メンバーとなり、全国的に18土壌医の会が土壌の調査測定に参加するとともに、4土壌医の会が土壌の物理性や化学性の具体的な改善対策に関する対策メニューの作成に携わった。

2. 活動報告

2022年度は、土壌医の会、日本土壌協会と連携して次の活動を行った。

(1) 「土壌医の会通信」の発行による会員間の情報交流の促進

土壌医の会会員や土壌医資格登録者との情報交流を密にするために2020年（令和2年）5月から「土壌医の会通信」を発行している。2022度は第10号から第12号を発行した。この中では、活躍している土壌医資格登録者や土壌医の会の活動内容を紹介している。

通信は、土壌医ネットワークの「土壌医の会通信コーナー」に掲載し、土壌医資格登録者にメールで送信した。

(2) 地域土壌医の会の活動計画のPR

11の地域土壌医の会が作成した年間事業計画を日本土壌協会ウェブサイト（土壌医ネットワーク「地域土壌医の会の案内」）に掲載した。

(3) 土壌医の会の会員等の研鑽、交流活動の促進

データ駆動型土づくり推進事業に、18土壌医の会が参画し、各地域でのオリエンテーション等通じて会員の土づくり診断能力等の向上や農家等との交流機会の拡大に努めた。

3. 部会活動

(1) 研鑽部会

日本土壌協会、土づくり推進フォーラムと等と共催して全国交流大会や研修会等を実施した。

① 第6回全国交流大会の開催

優良土づくり推進活動の表彰式と齋藤雅典東北大学名誉教授の基調講演「演題：土壌を国家とみなせば微生物は国民と例ふべし」を主な内容とする第6回全国交流大会を、12月7日（水）に千代田区立日比谷図書文化館で開催した。

② 講演会、研修会の開催

(イ) 土づくり推進フォーラムと共催で、「バイオスティミュラント資材開発・利用の最前線」をテーマとする講演会を8月4日（木）に、「土壌微生物の作物生育等への活用最前線」をテーマとするシンポジウムを12月21日（水）に開催した。

(ロ) 日本土壌協会と共催で土壌医資格登録者や合格者を対象としたレベルアップ研

修会を2022年1月13日（金）に開催した。

- (ハ) 全国土壌改良資材協議会と共催で、染谷孝佐賀大学名誉教授・北部九州土壌医の会会長の講演「演題：土づくりと堆肥の微生物」を内容とするオンライン講演会を5月25日（水）に開催した。

(2) 調査研究部会

① 地域重要問題研究会の開催

全国協議会と両総土壌医の会が共催で、みどりの食料システム戦略「バイオ炭の農地施用現地研修会」をテーマとして、地域重要問題研究会を11月11日（金）に開催した。

主な内容は、講演及び報告（会場：千葉県佐倉市内ホテル）とバイオ炭の生産実演（会場：（有）ゆうき圃場、千葉県四街道市内）であった。

講演：講師は、岸本文紅農研機構農業環境部門上級研究員；演題は、「バイオ炭での炭素貯留と土壌、作物に与える効果」

報告：報告者は、喜屋武誠司北総クルベジ局長・（有）ゆうき代表；報告内容は、「クルベジ環境創造型産地づくり」

(3) 土づくり普及部会

地域における土づくり普及に関する活動の強化に資するため、2022年度に土壌医の会等の活動に対する助成要綱を改正した結果、以下のような取組がなされた。

① 農業大学校等への出前研修の実施

実施主体	期日	実施内容
首都圏土壌医の会	2023年1月	埼玉県立児玉白楊高校において、畑地土壌のpH測定や貫入式土壌硬度計の使い方などについて研修を実施した。
大分土壌医の会	2023年1月と2月	大分県立農業大学校において、土壌医検定試験3級対策研修を実施した。

② 主に会員以外の方を対象にした研修会の開催

実施主体	期日	実施内容
首都圏土壌医の会	2022年6月と2023年1月～2月(5回)	さいたま市見沼グリーンセンターで農業基礎研修を実施した。また、その後に農業基礎研修参加者を主な対象として土壌医検定試験3級受験対策研修会をZOOM形式で開催した。
近畿土壌医の会	2022年12月と2023年1月	大阪府立環境農林水産総合研究所農業大学校において、土壌断面調査の実習を実施した。また、その後に2・3級土壌医検定試験受験対策研修会等を開催した。
大分土壌医の会	2023年3月	大分県豊後大野市土づくり研修会において、土壌診断に基づく土づくり等の研修を実施した。

③ 重点対象層への土壌医検定試験や土づくりの重要性のPR

実施主体	期日	実施内容
首都圏土壌医の会	2022年8月 ～12月	市町村、県農業指導センター、農業高校、JAなど30か所近くを訪問して、土壌医検定試験のポスター及びパンフレットを配付し、土壌医検定試験の内容を説明した。
高知土壌医の会	2022年11月 ～12月	高知県立農業大学校、幡多農業高校、高知春野高校、高知農業高校及び高知県営農指導員会を訪問して、土壌医検定試験の説明と受験要請並びに高知土壌医の会の活動内容の説明を行った。

4. 定例会議等の開催

(1) 「第1回幹事会」 Webによるオンラインで開催

- ・日 時：2022年8月11日（水） 13：30～15：00
- ・議 題：1. 2021年度年度事業報告案及び収支決算案について
(会計監査報告)
- 2. 2022年度年度事業計画案及び収支予算案について
- 3. 報告事項：
 - (1) 「データ駆動型土づくり推進事業」の概要
 - (2) 土壌医の会等の活動に対する助成要綱（案）、公募要領（案）及び継続研鑽要綱の一部改正について
- 4. その他

(2) 「第2回幹事会」の開催

- ・日 時：2022年12月8日（水） 10：30～11：55
- ・会 場：千代田区立日比谷図書文化館 4階スタジオプラス（小ホール）
- ・議 題：1. 2022年度事業の経過報告
- 2. 優良土づくり推進活動表彰事業への申請業績内容の取扱いの変更
- 3. 「データ駆動型土づくり推進事業」の実施状況
- 4. 報告事項：
 - (1) 土壌医資格登録者等レベルアップ研修会の開催
 - (2) 土づくりシンポジウムの開催
 - (3) 土壌医検定3級参考書の改訂
- 5. 質疑応答

(3) 「第6回全国交流大会」の開催

- ・日 時：2022年12月8日（水） 13：30～17：00
- ・会 場：千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 大ホール
- ・プログラム：
 - 1. 優良土づくり推進活動の表彰

- (1) 審査講評
 - (2) 表彰状と副賞授与
 - (3) 表彰者からの活動成果の発表
 - 1) 農林水産省農産局長賞（最優秀賞 土壌医の会部門）
 - 2) 日本土壌協会会長賞（個人部門）
 - 3) 日本土壌協会会長賞（土壌医の会部門）
2. 基調講演
- (1) 演題：「土壌を国家とみなせば微生物は国民に例ふべし」
—土壌微生物を作物生産へ活かす道—
 - (2) 講師：東北大学名誉教授 齋藤 雅典 氏
3. 2022年度事業の経過報告
4. 事務局からの報告
- (1) 土壌医資格登録者等レベルアップ研修会の開催
 - (2) 土づくりシンポジウムの開催
 - (3) 土壌医検定3級参考書の改訂

（受賞者：敬称略）

★農林水産省農産局長賞（最優秀賞） 1名

①山中 啓史（片倉コープアグリ土壌医の会）

「データ駆動型土づくり JA 山形セルリー部会 収量性低下要因の網羅的解析及び生育改善への取組み」

★日本土壌協会会長賞（個人部門） 2名

①野々下 昌利（大日本産肥株式会社）

「堆肥入り〈指定混合肥料〉を活用した大豆生育改善と堆肥、下水汚泥由来再生リン（MAP）入り〈指定混合肥料〉開発による環境資源循環型農業の取組み」

②丸山 一成（新潟県上越市地域振興局）

「新潟県糸魚川市における地力診断と有機質肥料の肥効特性調査に基づく水稻収量・品質の向上指導」

★日本土壌協会会長賞（土壌医の会部門） 2名

①大原 伴彦（アグロカネショウ土壌医の会）

「根ショウガ栽培における土壌物理性の改善の実施」

②森 昭暢（広島土壌医の会）

「農業高校や土壌医の会会員・会員以外の方を対象とした講師活動について」

★全国協議会会長賞（個人部門） 4名

①市原 知幸（岐阜県西濃農林事務所）

「施設葉物野菜の硫酸イオンの影響と専用肥料の導入」

②金原 伸大（北海道農業大学校）

「春まき小麦の詳細調査結果と地域への波及」

③鷲尾 建紀（岡山県農林水産総合センター）

「水田転換畑における野菜安定生産のための排水対策のフローチャートの作成」

④藤森 利雄（生産者）

「小学生への「土壌医」の紹介とヘチマの栽培指導」

★全国協議会会長賞（土壌医の会部門）4名

①大畑 和生（九州土壌医の会）

「農作物の適正な土壌水分を確保するための圃場物理性の判定と効果」

②青柳 敦子（片倉コープアグリ土壌医の会）

「土壌中の微量要素の存在形態から欠乏原因の推定と対策提案」

③神田 芙美佳（片倉コープアグリ土壌医の会）

「密苗×ペースト二段施肥による水稻生産の省力・軽労化・環境保全・収益向上の実践」

④長谷川 智重（両総土壌医の会）

「両総土壌医の会参加者のスキルアップと“土壌医”の認知向上活動」